



月の養蜂だより

6月号

今月のひとこと

雨の日が続く季節になりました。人にとっては少し憂鬱な梅雨。流蜜も少なく、ミツバチたちにとっても過酷な時期の始まりです。しかし植物にとっては大切な恵みの雨でもあります。自然はそれぞれ支え合って成り立っているのだと感じます。



蜂蜜のプチ知識

蜂蜜の減る時期

ミツバチは巣箱から半径2~4kmほど飛んで花蜜を集めています。花が減れば、当然ながら蜂蜜も減ってしまいます。

6月は雨の日が多くなる季節。雨が降っている間はミツバチも外へ飛ぶことができません。そのため、蜜を集める量も少なくなります。

ちょっとだけ環境の話

ミツバチは花蜜を集めるだけでなく、植物の受粉も手伝っています。野菜や果物の多くは受粉によって実をつけるため、ミツバチの働きは収穫量や品質にも大きく関わっています。

養蜂家のひとりごと

今年はミツバチを増やすことを優先しています。しかし巣箱や巣枠、薬剤、飼料など様々な費用がかかります。しっかりと群れを増やし、来年以降に安定して蜂蜜をお届けできる体制を作っていきたいと思っています。



今月のミツバチ:養蜂の話

春の分蜂シーズンもひと段落し、養蜂場は夏モードへ移行しました。夏のミツバチは実は来年の準備が始まる季節でもあります。この時期の群れの勢いを維持しながら、秋に向けダニ対策や女王蜂の管理を行い、元気な状態で秋そして越冬へつなげていきます。

季節ごとの管理

養蜂は春に蜂蜜を採るだけでなく、夏～秋は分蜂管理、女王休息、ダニ駆除、オオスズメバチ襲来など冬にかけての管理が翌年を左右する大切な時期なのです。



今月の一枚

台風で巣箱の蓋が飛んでいました。大きな被害はありませんでしたが今後も注意が必要です。



ここまで読んでくださり、ありがとうございます。ミツバチや蜂蜜、環境などについて、少しでも身近に感じてもらえたら嬉しいです。InstagramやTikTokにて365日で復活する養蜂家として発信もしています。